図画工作・美術

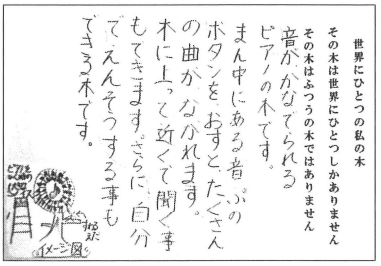
# 豊かな造形体験を活かし，自分らしい表現を追求する図画工作・美術科学習

## ― 思いをつかみ伝え合う中で思考力・判断力・表現力を育て高める ―

## 1 図画工作・美術科で願う豊かな学びの姿

児童Ａは，活動の導入で一つの文章と出会う。「世界にひとつの私の木　その木は世界にひとつしかありません　その木はふつうの木ではありません」とだけ書かれたものである。以下に続く言葉は教師が例を示した上で，自分で考え完成させる。言葉からイメージを喚起し，言葉で最初の発想を具体化する。児童Ａは，楽しみながら自由に自分だけの木を書き表していった。それだけで表しきれないことや，絵に表したくなったことを文章に添えて表現する姿も見られた。

資料：「イメージ文」（児童Ａ）




授業後のふりかえり（抜粋）

今日は，図工がありました。それで，完成して，ろうをぬろうとしたけど，自分の絵を見ると，何かまわりが暗くてさみしい事が分かりました。それで，木のまわりに色をぬりました。私の木は「音がかなでられるまほうの木」なので，まほうっぽい感じを出すために，にじ色にしました。そうしたら，とても明るい感じになったのでよかったです。自分の絵を，見直してみるということは，とても大切だなぁと思いました。

（小学４年　児童Ｂ）

授業後のふりかえり（抜粋）

ミニチュア作品をつくる際に自分なりに工夫をしてみました。複雑な構図にしてみたり，トーナルカラーとトーナルカラーの間に余白をつくったりしました。初めてデザインナイフを使ったけど，初めはうまく使えませんでした。しかし時間がたつにつれて慣れてきました。友達にもいろいろなアドバイスをもらったので，このミニチュア制作が本制作にとても生かせそうです。

（中学２年　生徒Ａ）

上の文章において，児童Ｂは，「世界に一つの私の木」の学習後に，また，生徒Ａは，「四角形から生まれる不思議な世界」のふりかえりに書いたものである。児童Ｂは，自分の作品を見直す中で，構想していたイメージと表現した色の感じ方の差を見つけ出し，納得できるものへと修正することができた。表したいことに向けて考えを発展させたり，表し方を工夫したりして，自分らしい自分だけの木を描こうと意欲的に活動することができた。生徒Ａは，ミニチュア制作を通して試行錯誤を行い，本制作に向けてのイメージを膨らませることができた。初めて扱う道具もあったが，根気強く制作を行う中で器用に使いこなせるようになった。グループで試作作品を鑑賞し合い，工夫しているところやアドバイスなどを伝え合うことによって，作品の本制作に生かすことができた。

どちらの子どもも，自分が表したいものやことについての考えを大切にしたり，新たな発想を獲得するために友だちの力を借りたりしながら，表したいことをよりよくするために，感性を働かせて選択し，活用しようとする姿がある。

本学校園の図画工作・美術科では，「豊かな造形体験を活かし，自分らしい表現を追求する図画工作・美術科学習」として，自分や他者の思いをつかみ，伝え合うかかわり合いの中で，より豊かな表現を追求していく授業づくりに取り組んできた。そこで，11年間を通して育む具体的な学びの姿を次のように定義する。

○　体験から感じ取り，体験を活かして自分らしい表現を追求しようとする姿

○　互いの考えを伝え合い，自分や仲間の表現を発展させようとする姿

体験から感じ取り，体験を活かして自分らしい表現を追求しようとする姿については，造形活動において子どもが自分の思いや欲求，願いなどを色や形に表すことをねらいとする。そのために，子ども一人ひとりが表現主題をつかみ，必要感をもって用具や素材を取捨選択し，体験したことを活かして，自己実現の象徴としての作品を自分らしい表し方で平面や立体で表すことができるようにする。このよう

な学齢期の子どもの多様な表現が可能であることが図画工作・美術科の教科性を特徴づけている。また，幼児期においては遊びや生活そのものが，体全体の感覚を働かせて行われる多様な表現であると言える。

互いの考えを伝え合い，自分や仲間の表現を発展させようとする姿については，子どもが遊びや造形活動をする過程や，その結果から見つけ出した表現のよさや面白さ，そのよさや面白さを支えている取り組みのよさを見つけ出すことをねらいとする。そして，そのよさは会話や文章などの言語活動，時として図や絵，実演などによって伝わり，共有され，評価される。また，作品から表現のすばらしさを感じ取ったり，背景にある伝統や文化，作者や時代の人々の生き方に触れたりすることができる。前述の表現活動と一体化した鑑賞活動は言語活動とも深い関わりをもつ。そして，表現活動と鑑賞活動は相互に補完する関係にある。

## 2　昨年度までの研究の経緯

### (1) 子どもをとらえるという視点で取り組んだことから分かったこと

幼小中一貫教育を追求していく中で，図画工作・美術科ではこれまで研究テーマを「豊かな造形体験を活かし，自分らしい表現を追求する図画工作・美術科学習」と設定して取り組んできている。子どもの豊かな学びの姿を図画工作・美術科の授業において，また，幼稚園での造形的な遊びをとらえる中で実現するために，次の点を大切にしたいと考えた。造形表現や造形的な遊びを追求する過程において，子どもが主体的に自分を表現したり，互いを共感的に理解し合おうとしたりする学び合いの場を，子どもの必要感に配慮しながら，意図的，積極的に学習活動に位置づけたり，生活環境の中に位置づけたりしていくことである。そこで，課題を追求する過程で主体的に体験を重ね，試したり，取捨選択したりしながら，表したいことを実現させていくことが，子ども一人ひとりの造形表現の質を高めるとともに，総じて学級全体の造形表現の質を高めることにつながると考えた。

### (2) 図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力

図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力を以下のように考え，これらすべての能力は図画工作・美術科では分断されることなく，一体化し，造形活動の中で自然に働いていく力であると考えている。

「思考力」は，表現したいことにせまろうとする時，直感的にまたは論理的に言葉や図・イラスト等を使って物事を考える力であると考える。また，言いたいことがはっきりしない場合など，色や形や図に表して整理しながら考えることがある。アイデアスケッチなどが例として考えられる。このとき，思考と判断と表現は一体化して働いている。表現や鑑賞に関わって，直感的に感じたり，データに基づいて推測したり，情報を分析・評価・論述したりすることも思考力が働く場であるといえる。また，その場で働く力そのものが思考力であるといえる。

「判断力」は，感性を働かせて対象と向き合った時，様々な直感や思考等による発想を通して，自らのイメージを練り，表現することを決定する構想へとつながるものとして働く力であると考える。何かを鑑賞する時，美しいと感じたり興味をもったりする力も感性的な判断力といえる。また，表したいものに合わせて材料や用具，手段や方法を適切に選択する力であり，鑑賞の場では色や形から意味を感じ取ったり，イメージしたことをもとに，表現の意図や作者の意図を読み取ったり，友だちの言葉など自分に働きかけてくることに対して，理解したり，必要に応じて取捨選択したりする力であるといえる。

「表現力」は，形や色を通して自分が見たことや感じたことや表したいことをあらわす力であり，図画工作・美術ではこれまで特に強調されてきた能力であり，教科の特性を強く主張するところであるといえる。また，自分をあらわすことだけでなく，自分を他者や社会とつなぐ広義での「コミュニケーション能力」そのものであるといえる。

### (3) 思考力・判断力・表現力を育てる学び合い

実践後のふりかえりや作品の変遷から見取ることができた表現の高まりから成果を検証した結果，思考力・判断力・表現力の育成に，他者とのかかわり合いが有効であることが分かった。また，個人思考と集団思考をつなぎ活性化させていく教師のはたらきかけにより，さらに高まるようなかかわり合いのあり方を探ることの必要性が見えてきた。

子どもたちは教師や友だちに話しかけることで，表したいことを自身で確認したり打開策を見つけ出そうとしたりする。単元構想においては，その機会を学習活動の中に意図的，積極的に位置づけ，学びの機会を見落とさないようにすることが肝要であると考える。そこで，単元の構想では，一つの作品を

学級全体で鑑賞してよさを共有したり，よりよくするための提案を行ったりする学び合いの場を設定する。グループなど小集団での相互鑑賞会の場を設定することも意義を同様とする。

昨年度は，個人思考と集団思考をつなぐ教師のはたらきかけにより，学級全体の学び合いを豊かにすることで，子どもたちがより質の高い表現の追求に向かうことをねらい，次の3点について取り組んだ。

(ⅰ) 互いの造形表現のよさや追求の仕方のよさを伝え合い，学びを深めたり広げたりする「学び合い」を工夫する。
(ⅱ) 自分の追求の深まりや広がりに気づかせ，以後の学習やくらしにつなげていくようにする「ふりかえり」を工夫する。
(ⅲ)「学び合い」と「ふりかえり」を連動させることにより，主体的な学びの姿を自覚できるようにする。

前述の小学4年生の実践では，墨で絵をかく際に道具を選び，多様な線を生かして表したいことを追求する活動を行っている。表した墨の線の効果が表現意図と結びついて豊かな造形表現を生み出したとき，子どもたちは互いにそのよさを言葉に表し，自分一人では思いもしなかったよさや面白さに気づかされる場面が多く見られた。漠然として言葉に表せなかった表現のよさについての個人思考を集団思考につなげ，かかわり合いを活性化させるはたらきかけを行うことにより，作品のよさが言語化され，新しい価値が引き出され，発想を広げたり構想を高めたりすることができた。

このように，子どもが表そうとしている造形表現について，その背景や考えを掘り下げる問いかけをすることで，表したいことを確かめたり，その他の可能性に気づかせたりする。子どもの学びのよさを認めたり，作品を見る視点を提案したりするなど，適切にはたらきかける。その結果，子どもの感性をゆさぶり，より深く考えたり，多角的に見方を広げたりすることができ，思考力・判断力・表現力が育成されると考える。また，その学びを子どもたち一人ひとりに記録として蓄積していくことで，子どもが課題意識を持ち，意欲を高め，見通しをもって活動に取り組むことができることがわかった。

## 3　本年度の研究

### (1) 思考力・判断力・表現力を育て高めるための授業づくり

昨年度までの研究から，先述の（ⅰ）～（ⅲ）の3点について，より充実させた学習活動を展開する。学び合いの充実とふりかえりの充実，そして，その連動が図画工作・美術科の思考力・判断力・表現力を育成するために有効である。

#### ①学級全体で学び合う場面を大切にする授業の枠組みを工夫する

新学習指導要領で述べられている言語活動の充実，つまり，相互に評価，論述することは図画工作・美術科においても大切にしたい。言語活動を通じて思考力・判断力・表現力等の育成を考える時，図画工作・美術科ではA表現やB鑑賞の領域に示される学習活動の中で，「見る」「聞く」「考える」「話す」力を生かして感性をゆさぶり，自分や友だちの造形表現を高めたり，鑑賞の力をのばしたりすることが大切である。また，図画工作・美術科の教科の特性として，学び合う場面で相手に伝える手段として，言語化だけでなく，図やイラストに整理したり，動作を伴う実演を通して伝えたりすることもできる。

言語活動やそれらの行為によって表現主題などについて意識化を図ることにより，次第に考えがまとまり，漠然としていたイメージが明確になり，発想が高まったり構想が深められたりすることができると考える。

そこで，題材や単元を構想するに当たり，試行錯誤の取り組みによって積み上げられた経験や気づき，一人ひとりの考えや追求の様子を学級全体の場に出し合い，共通の視点に基づいてその造形表現のよさや追求の仕方のよさを学び合うことができるようにする。集団思考と個人思考をつなぎ，学び合いの場を活性化させる。子どもたちが考えを出し合い，かかわり合うことで，自らの追求を深め，意欲を高めることができるようにする。学級全体で学んだことを，今度は自分自身の造形表現に取り込むことができるように，整理し，広げたり，深めたりできるような教師のはたらきかけを行う。

以上のように，体験から感じ取ったことを表現すること，課題について構想を立て，実践し，評価・改善すること，互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させることを，学習活動の中に明確に位置づけて展開していきたい。

②評価を生かした学び合いにおける教師のはたらきかけのあり方

今年度は後述する評価を生かし，子ども自身が自分の学びの高まりをしっかりととらえることができるようにしたい。表現が高まっていく課程や自分の表したいことをはっきりとつかむことにより，個人での追求や学級全体での学び合いもより深い取り組みが期待できる。教師はその評価を生かし，子どもの学びを詳細にとらえ，授業を改善し，「掘り下げる」または「提案する」はたらきかけに反映させることにより，子どもの必要感に応じて手立てを講じることができると考える。学び合いにおいても論点や視点を整理し，新たな発想や構想につなげるはたらきかけができると考える。

③各教育研究ブロックにおける思考力・判断力・表現力を育成する上での方針

幼稚園には教科としての取り組みはないが，遊びや生活の場において子ども同士のかかわり合いを意識して，環境を構成していくことが大切であると考える。どの発達段階においても子どもは自分の考えや追求の仕方などを積極的に表現し，伝えていくことができる。また，友だちのそれと比べながら，そのよさに気づき，そのよさを自分に取り込み，見直す中で，さらによりよい追求の仕方を見出したり，自分の考えを広げ，深めていったりできると考える。初等部前期の教科に体系づけられた学習では，自分自身の感じ方に気づいたり考えをもったりする中で，自分の思いや考えを色や形に表していく。初等部後期は自分が見いだした課題について構想を立て，表現の意図を説明したり構想についての考えを交わしたりして，自他の表現を評価・改善していく。中等部では表現意図や課題について構想を立て，実践する。そして，ものの見方や考え方，自分や他者の気づきなどを説明する場を通して，構想に沿った評価・改善をしていく。一貫教育のつながりから思考力・判断力・表現力をとらえ，各発達段階を大切にした学習指導をめざしたい。

### (2) 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

今年度は，思考力・判断力・表現力を育成する観点にしたがって，各題材や小単元ごとに子どものふりかえりや自己評価を充実させる。作品から見取ることのできる造形表現の変遷を画像により集積し，表現主題に沿った発想や構想を図示や言語化により集積する。それらを元にしたポートフォリオによる評価を行うことにより，子ども自身が自分の学びの高まりをとらえられる手立てを構築したい。このポートフォリオに集積された記録は，学び合いの中で子どもの思考や判断がどのように変容したのかを，指導者がとらえる上でも有効な評価資料たり得ると考える。授業場面での子どもの気づきに関する言葉や活動の様子からは質的な評価を，また，授業後のふりかえりや評価アンケートからは，より客観的で量的な評価を行う。

評価規準の作成に当たっては，子どもの表現の追求に応じて，「題材の評価規準」だけでなく，より詳細な「学習活動に即した評価規準」を設定することも考えたい。単元題材配列表に示したように，各題材や単元を構想するに際しては，具体的な評価場面や子どもの姿を想定した評価規準を作成することで，思考力・判断力・表現力を評価する手立てとしたい。表現のプロセスをより詳細に把握することは，図画工作・美術科において子どもの思考や判断をとらえる上でも有効な評価方法であると考える。

## 4　成果と課題

図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力を11年間のつながりからブロックごとに整理してとらえ，その育成を図ってきている。幼児期の遊びから培われる造形表現活動の基盤を受けて，小中学校で系統的に発展させて高めていきたい発想や構想の能力として，より具体的に教育研究ブロックごとに願う子どもの姿をイメージすることができた。この力を中心に据えてより豊かな造形表現を追求するためには，学習場面での学び合いが重要であり，その評価のあり方や，評価を受けた授業の改善をさらに進めていくことが課題である。

（文責　三桐　摂夫）

【参考文献等】
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2010)，児童生徒の学習評価のあり方について(報告) 22.3.24
文部科学省(2010)，言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～22.12
国立教育政策研究所教育課程研究センター(2011)，評価方法等の工夫改善のための参考資料23.3